

いま、私にできること

「ハチドリのひとつぐく」から学ぶ

森が燃えていました
森の生きものたちは われ
さきにと逃げていきました
でもクリキンディという名
のハチドリだけは
いったりきたり
口ばしで水のしずくを
一滴ずつ運んで
火の上に
落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをして
いったい何になるんだ」
といて笑います
クリキンディは
こう答えました
「私は 私にできることを
しているだけ」

このお話は、南米アンデ
スの先住民に伝わっている
民話です。

「森が燃えている」こと
を私たちが生きている社会
の深刻な問題（人権問題・
貧困・戦争など）に置き
換えてみると、クリキンデ
イの姿は、私たちにひとつ

の示唆を与えてくれている
ように思います。

目の前で起きている事象
に対して、「自分にできる
ことはなにもない」「そん
なことをして何になるんだ
ろう」と、目をそらしてし
まうことこそが大きな問題
なのです。

「私にもできることがあ
る」と思えば行動に移すこ
とができるかもしれません。
その気になれば力を合わ
せて燃えている森の火を消
すだけの力を発揮すること
もあります。

家族や地域の人、友人
や同僚とのつながりの中で、
水のしずくを落とすよう
な行為は、自分の身の回
りにもいっばいあるような
気がします。

クリキンディは自らの行
動で伝えてくれているので
す。

他の人を非難したり、
怒りや憎しみ・ねたみに身
を任せる暇があったら、「自
分のできることを、自分にも
できることをひとつひとつ
ていこうや」。

「燃えていたあの森は、
その後どうなったでしょう。
物語の続きはあなた自身
が描いてください。」と、
この民話を翻訳した辻信
一さんは結んでいます。

それがなくては生きてい
けないものなのに、普段の
暮らしの中では、なかなか
意識されにくい人権。そん
な大切なものだからこそ、
自分で気づくということ、
気づいたら自分はどう行動
するべきなのかを考えると
いうことが大事なのだと思
います。キーワードは多様
性、心配り、思いやり、や
さしさ、想像力、……あな
たの見つけたキーワード
は？。人と人とのふれあい
の中から、同和問題をは
じめ、人権を深く考える
糸口を探してみませんか。

引用・参考

辻信一監修 光文社刊
「ハチドリのひとつぐく」

市人権推進課(教育庁舎1階)

TEL 32・2122

FAX 33・3525

E-mail: jinkensushin@city.

komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (318) 松並敦子・選

背番号着けられしごとマイナンバー 庭の山茶花いよいよ朱し

田浦町 太田カツミ

《評》スポーツ選手の背番号ならぬ日本国民全てに12桁の番号がつけられて、その通知書が送られてきた。私のような老人は、利用方法も分からぬまま、大切にしまい込んでいた。そのマイナンバー制度と庭の山茶花は無関係のようであるが、「背番号つけられし」「いよいよ朱し」により、戸惑いや、もろ手を挙げて賛成できない微妙な気持が伝わってきて、省略の効いた技巧的な歌である。

健康に勝る富なし若くしてすこやかにし日をなつかしむ

田浦町 西 照子

ケンタツキーおじさんは背を向けており前を向くのは開店時間

横須町 山崎 泰子

風邪ひくよと肩に半纏掛けくれし母思い出す山は初雪

赤石町 田原トシ子

ハワイより四国巡拝団迎え手造り並ぶ立食パーティー

横須町 福島 夢栄

両足を強くふんばり抱かれて母親ゆさぶる男の子たくまし

立江町 濱 耕一

目覚しが六時を告げて何十分ようやく起きて日めくりめくる

小松島町 川人 豊子

小春日のやさしき風に誘われて落葉は踊ること軽やかに舞う

神田瀬町 大西カヲル

阿波に生れながらに踊る手も足もあらぬを恥じおり古希近き今

立江町 湯浅かや子

病室のわれの名札の墨の字の関政明はぼけてしまぬ

ひのみね総合療育センター 関 政明